

超スマート社会を生き抜く人材の育成

～社会が変わる、学びが変わる～

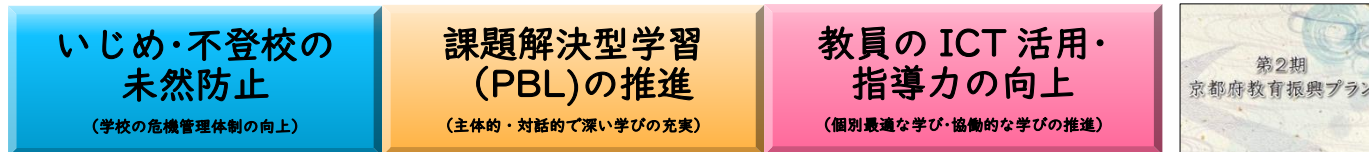
◆令和4年度の中丹教育局目標

未来を拓き、ともに幸せに生きる力を身に付けた子どもの育成

学校教育 目標

- ★ 自分のよさや可能性を認識し、主体的に学び考える子どもの育成
- ★ あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働し、新たな価値を生み出す子どもの育成

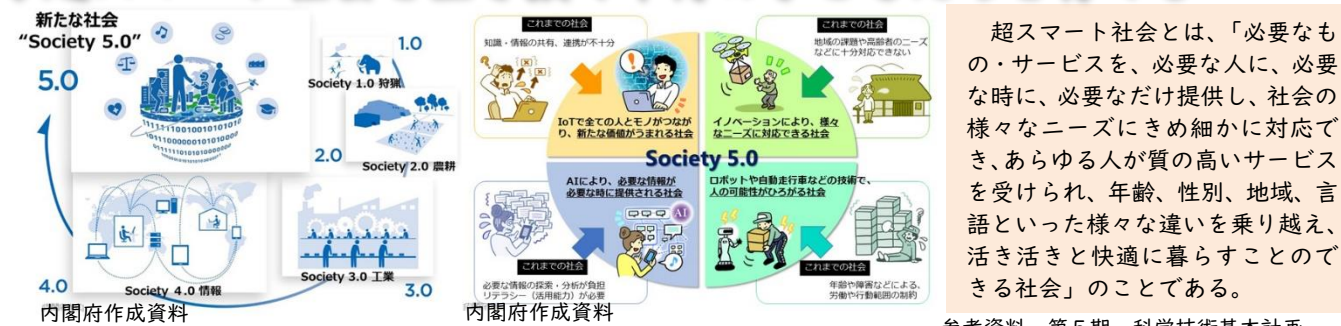
取組の重点



第2期京都府教育振興プランでは、「学んだことを活かして答えのない問いに挑み、自分の力で考え、判断し、主体的に行動できる人」、「多様な人々とつながり支え合いながら、社会の一員としての責任を果たし、価値観が多様化する社会において、自分らしく幸せな未来を創り出せる人」が求められています。学びを支える ICT や先端技術を効果的に活用し、多様な他者と関わり対話を通じて学び合う、調整する力や新たな価値を生み出す力を育成することが必要です。

このことを受けて、令和4年度の中丹教育局では上記の3つの内容に重点的に取り組めます。

◆超スマート社会を生き抜く中丹の子どもたちを育てる



参考資料 第5期 科学技術基本計画 (内閣府)

新たな社会を実現するために、「第6期 科学技術・イノベーション基本計画 (内閣府)」の中で、人材育成について次のように述べています。

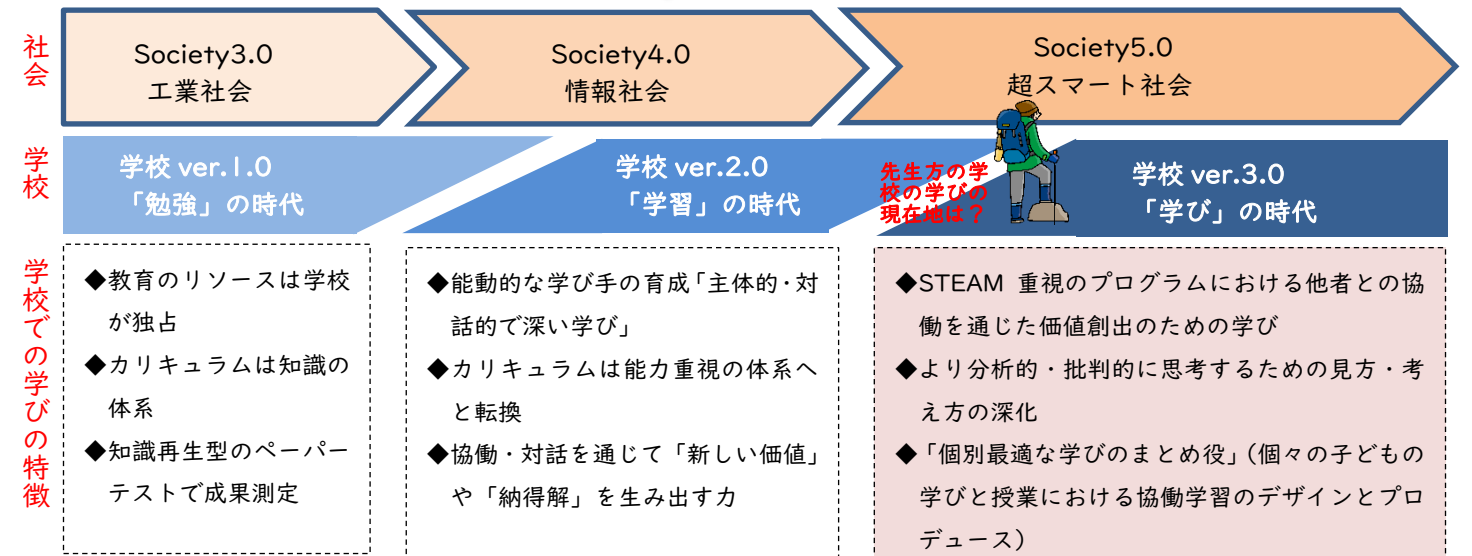
一人ひとりが多様な幸せを実現する教育・人材育成の環境が整備された上で、特に必ずしも一つの決まった正しい答えがあるわけではない現実の社会の中、試行錯誤しながら課題に立ち向かっていく能力と意欲を持った人材を輩出する学びを実現する必要があります。(中略)

まず、初等中等教育段階から Society5.0 時代の学びを実現していく必要があり、好奇心に基づいた探究力の強化に向け、STEAM 教育など問題発見・課題解決的な学びの実現を図る。特にその際、大学や企業を含め、社会全体が学びを支える環境を整備する。

参考資料 第6期 科学技術・イノベーション基本計画 令和3年3月26日 閣議決定 (内閣府)

このような考えのもとに、学校教育が担う新たな人材育成を中丹教育局は目指しています。では、今までの学校教育と今後目指す学校教育では何が違い、どう変えていくのでしょうか。

◆学校教育で育てる Society5.0 を生き抜く力



参考資料 「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(平成30年6月5日) Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会、新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース (文部科学省)

Society5.0 の超スマート社会を生き抜くためには、一人一人の幸せと課題への挑戦を実現する人材の育成が求められます。そのための効果的な学びを実現するためには、左の「第6期 科学技術・イノベーション基本計画 (内閣府)」にあるような、STEAM 教育など問題発見・課題解決的な学びを学校教育の中に取り入れていくことが大切になってきます。その方策については、以下の提言や答申の中に記されています。

国は、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することができるよう、初等中等教育段階においては、STEAM 教育 (Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics 等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決にかかしているための教科横断的な教育) を推進するため、「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」、「理数探究」等における問題発見・解決的な学習活動の充実を図る。その際、各発達段階において、レポートや論文等の形式で課題を分析し、論理立てて主張をまとめることも有効である。

参考資料 技術の進展に応じた教育の革新 新時代に対応した高等学校改革について 令和元年5月17日 (第十一次提言) 教育再生実行会議

小学校、中学校においても、児童生徒の学習の状況によっては教科等横断的な学習の中で STEAM 教育に取り組むことも考えられる。(中略)

STEAM 教育等の教科横断的な学習の前提として、小学校、中学校、高等学校などの各教科等の学習も重要であることは言うまでもない。各学校において、習得・活用・探究という学びの過程を重視しながら、各教科等において育成を目指す資質・能力を確実に育むとともに、それを横断する学びとしての STEAM 教育を行い、更にその成果を各教科に還元するという往還が重要である。

参考資料 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申) 令和3年1月26日中央教育審議会

問題発見・課題解決的な学びは、カリキュラム・マネジメントの視点から各教科等間の往還により、学びがより深まるような工夫が必要です。そのことが、STEAM 教育における教科横断的な学びを深めていくことにもつながります。

「中丹のまなびⅪ」には、これらの各種答申や提言等の考え方をもとに、ICT 活用、次世代型学力学習状況調査、課題解決型学習等について掲載しています。新たな学びの指針として校内研修等に御活用ください。